



— 展示解説員が博物館の見どころを紹介します —

2021.10.1

サシバの渡り

1階自然史展示室の「生きものたちの生活コーナー」にサシバという渡り鳥の標本があります。今回は、このサシバについて紹介します。

サシバは全長約50cmと、カラスとほぼ同じ大きさのワシやタカの仲間です。春から夏に日本の低地にある森林に繁殖のため渡って来ます。そして、冬はフィリピンなどの南方で越冬する夏鳥です。

10月頃、北から季節風が吹き始めるとサシバは南下をはじめます。サシバは数十羽から、多い時には数百羽の集団で渡りを行います。上昇気流を利用しながら、宮崎へは四国から延岡に入り、都城の金御岳かねみだけを通過します。

金御岳は全国有数のウォッチングポイントとして愛鳥家達に親しまれています。機会があればぜひサシバの渡りを観察してみてください。

備蓄銭入り壺



「朝日差し夕日差す所、宝のかめ七つ埋もれり」の伝説が残っていた五ヶ瀬町。その伝説の通り五ヶ瀬町の坂本城跡より、6個の壺が出土しました。1960年(昭和35)のことです。それらの壺の中には、「永楽通宝」や「洪武通宝」などの中国の銭貨を中心に約4万枚もの様々な銭貨で満たされていました。その中には日本の皇朝十二銭のひとつ「萬年通宝」といった希少な銭貨も含まれていました。備蓄銭は中世に多く、飢饉や戦いに備えて備蓄していたと考えられます。

宮崎県総合博物館の歴史展示室には、坂本城跡より出土した壺と多量の備蓄銭が展示されています。ところで伝説には「宝のかめ七つ」とありますが、実際出土したのは6個…。謎が残りますね。



博物館クイズ

これは隼人の盾はやと たてといます。
この盾は使われなくなった後、井戸の部材として利用されましたが、次のうちどこの宮跡で見つかったでしょう？

- ① 平安宮跡 ② 平城宮跡 ③ 藤原宮跡



堀宮御土 ②：堀玉

